

# ネットワーク 資料保存 第114号 2016年7月

日本図書館協会  
資料保存委員会

## 脚本アーカイブズ活動における資料保存

石橋映里

### 1. はじめに

「脚本アーカイブズ活動」とは、主に放送番組（テレビ、ラジオ）の脚本・台本（以下脚本と呼ぶ）を収集保存管理し、一般公開を目指す活動です。発端は2003年、テレビ放送開始50周年を機に国会に招致された脚本家・市川森一氏（日本放送作家協会の当時の理事長）の発言でした。「シナリオ、放送台本の資料館が欲しい。放送現場は一過性のものだが、その質の向上のために、台本を系統立てて研究できる資料館を」という要望でした。出席議員から超党派の賛成を得て、2005年秋より文化庁の人材育成として助成研究が認められ、足立区立中央図書館が併設されている生涯学習センター・まなびピア内の一室をご提供いただき、脚本アーカイブズ準備室を設置。足立区政策経営部と日本放送作家協会との協働研究事業（足立区内に脚本アーカイブズ拠点を設置する構想を検討する協働研究）という形で脚本の収集活動が始まりました。

2011年5月、文化庁と国立国会図書館の間で「我が国の貴重な資料の次世代への確実な継承に関する協定」が結ばれ、脚本・台本の保存の検討が国レベルで開始されました。日本放送作

家協会の一般社団法人化に伴い、2012年6月、脚本アーカイブズ活動の推進を目的に、一般社団法人日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアム（代表理事・山田太一）が設立され脚本アーカイブの活動を引継ぎました。収集された脚本は現在約6万7千点あまり。そのうち約2万7千冊（1980年以前）が国立国会図書館へ、1万5千冊（1981年以降の作品。うち2千冊は個人情報被覆中）が川崎市市民ミュージアムへ寄贈され、公開されています。

文字にしてみると大変順調に見えますが、活動は常に困難の連続です。ビジネスに直結しない文化活動ゆえに、資金繰りや人材育成、作業場所、そして何より「資料の劣化との闘い」が強いられます。脚本の収集は古文書の発掘に似ています。寄贈者のお宅から何が出てくるかわからない。思わぬお宝脚本を見つけて喜ぶと同時に、その劣化に頭を悩ませます。私たちは放送作家であり、資料の専門家ではありません。この場をお借りして、資料保存との闘いを問題提起の形で書かせて頂きます。皆様からのご助言を頂ければと願っております。

### 2. 劣化の種類

放送脚本とは、番組を制作し放送するために使用されます。ドラマであれば、場面設定（柱とよばれる）、ト書きやセリフが書かれ、番組スタッフ全員が使う資料です。また、ドキュメンタリーやバラエティにも構成台本（脚本と区

## CONTENTS

脚本アーカイブズ活動における資料保存……………	石橋映里	1
常総市立図書館の水損資料救済について……………	緑川朋子	4
常総市立図書館の復旧支援について……………	須藤猛彦	6
〈参加記〉日本図書館協会資料保存委員会主催 「製紙工場を見学しよう！」王子マテリア江戸川工場見学会……………	木本洋祐	8
2016年度日本図書館協会資料保存委員会資料保存セミナーご案内「写真保存の基礎～ どのように残すことがベストなのか？」……………		9
資料保存委員会の動き……………		9
デジタル版以降へのご挨拶……………		10

別し台本と表示)があり、番組内容の構成やナレーション原稿、映像指示など様々な情報が書き込まれます。寄贈される脚本・台本の多くが、実際に使用されたものです。セリフの訂正をはじめ、演出家によるカメラ位置などのカット割り、俳優の演技プランも書きこまれています。そして、撮影や放送終了後、脚本はその役割を終えます。図書と異なり、長期保存を想定していないため、劣化は様々な形で表れます。

①紙の劣化(主に酸性化) ②ホコリとカビによる破損 ③ステープラー止め、セロハンテープなどの付着物 ④インクの退化 ⑤個人情報の処理、以上が挙げられます。

### 3. 対処方法

#### ①紙の劣化(主に酸性化)について

保存されていた場所により劣化状況に差異が生じますが、特に劣化が激しいのは、戦後から1960年代の資料と思われます。紙の弾力性が失われて外周がミルフィユのようにパラパラに崩れているものも存在します。セリフを差し替えた時に冊子に挟み込まれた資料は、少しはみ出した部分に劣化が生じます。

各館に寄贈するにあたり、閲覧提供時の参考情報として、劣化の有無をリストに記入しました。その際、修復実習を経験している学生たちに参加してもらいましたが、個々人の基準の揺れが問題になりました。国立国会図書館への寄贈準備作業においては、劣化のサンプルを基準として、紙の端を折り畳んだ時に千切れてしまうほど弾力性が失われたものを「劣化」と判断しました。

国立国会図書館に寄贈した資料(1980年以前に制作されたもの)は最低35年が経過していることから、約2万7千冊の寄贈資料すべてを中性紙の封筒に入れ替えました。脚本の多くはB5版の冊子として作成されます。しかし角3サイズの封筒に収めると、排架時に封筒の口が開いてしまいます。そこで特注の封筒として、角2封筒を変形させ、蓋を4センチほど確保した形のものを用意しました。なお、いくつかの手書きの生原稿については立てて排架せず、中性紙の文書箱(平箱)に収納し、水平に保存しています。

現在倉庫に保管されている資料についても、移管までの間の劣化を防ぐため、1980年以前の資料はすべて中性紙の封筒に入れ、段ボールに入れた形で保管しています。

なお、放送局のアーカイブの中には、酸化防止策として脚本を真空パックにして保存している事例もあるようです。

#### ②ホコリ、カビ(臭)による破損について

寄贈者宅の保存には、ホコリとカビ臭がつきものです。燻蒸には多額の費用がかかります。そこでコンソーシアムでは、ホコリを落とした後に虫干しの作業を行っています。長時間の虫干しはインクの退色に繋がるため、1~2時間を目安に行い、表面のみならず内側にも風が当たるように資料を裏返ししながら根気強く行います。雨だけでなく風の強さにも影響することから、作業は天気予報を確認しつつ行います。カビ臭については、アルコールを脱脂綿に湿らせ(または除菌用のアルコールティッシュにて)消毒して対処しています。

収集を始めた当初、ご自宅の倉庫に保管されていた脚本が届いた折、シロアリの被害が見つかったことがあります。積み重ね東ねられた本が「柱」のような形となり被害にあったようです。そのまま廃棄できないため、箱を嚴重に封印し緊急にて燻蒸を依頼しました。1箱のみで20万円ほど費用が掛かりました。燻蒸したとはいえ、コンソーシアムでの保管は難しいことから、資料は溶解廃棄業者により処分されています。



(害虫の被害にあった脚本)

#### ③ステープラー止め、セロハンテープなどの付着物について

昭和40年代までの作品の多くが、ガリ版印刷で作成されています。袋とじ・ステープラー止めの製本が多く見受けられます。ステープラーはほぼ100%サビが生じています。ステープラー

の劣化については現在何も処置を行っていません。サビが進み、折れてしまったものについてのみ、資料から取り除きバラバラの冊子として保存しています。

以前、板目表紙で補強し、和綴じを施す修復を数十冊行いました。しかし、その作業が膨大な時間がかかる上、デジタル化などの作業の際に支障が生じることから、現在は行っていません。

また、表紙全体をセロハンテープでコーティングした脚本もあります。

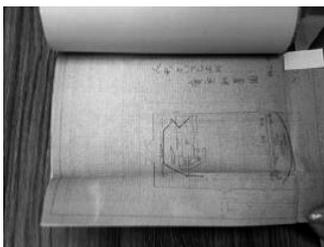


(セロハンテープで覆われた脚本)

強度を高めて使用時の利用による損耗を防ぐためだったと思われそうですが、年月の経過によりテープは剥がれ、糊部分だけが紙に残されます。今後、この糊部分がどのような変化を及ぼすのかはわかり知れません。このような状態もリストの劣化欄に記入します。

#### ④インクの退色について

ガリ版印刷や青焼き印刷については、インクの退色やにじみが現れています。脚本に添付されている設計図(セット図)などについては、「青焼き資料」と寄贈リストに記入しました。2015年度、国立国会図書館では、寄贈資料の1割強の約3千冊についてデジタル化が実施されました。デジタル化の対象を選ぶ際は、その判断基準として、寄贈リストをもとに①の紙の劣化が見られるものに加え、青焼きなどが含まれるものも優先とされました。



(青焼き資料入りの脚本)

現在倉庫に保管中の資料の中には、戦前の資料や大正期の資料(復刻版)も含まれています。しかし、このままでは公的機関へ寄贈した時に読めなくなっている事態が生じます。そこで昭和初期の資料から優先し、事前にデジタル化の実施を計画しています(2016年度実施予定)。

#### ⑤個人情報の処理について

国立国会図書館においては、寄贈者等個人の住所や職歴、電話番号等が記載されたものは被覆作業を施しています。

問題は、川崎市市民ミュージアムに寄贈された1981年以降の脚本の扱いです。脚本にあらゆる情報が書き込まれた時期があります。その一冊を調べれば、スタッフや二次使用の際の権利者まですべて一覧できるものです。ここ数年、個人情報保護が徹底され、必要最小限度に変更されています。川崎市市民ミュージアムの公開(2016年6月17日より開始)に向け、どの情報を被覆すべきか検討が重ねられました。ほぼすべての脚本に電話番号が書き込まれています。そこで、法人の電話・住所については処理せず、個人の住所・電話番号のみを被覆の対象としました。その数、約2千冊。約13%が被覆の対象となります。被覆作業については、今期の夏休み、修復専門の学生たちの協力を得て行われる予定です。

## 4. 最後に

上記の管理・修復等の作業は、すべて文化庁の委託事業「文化関係資料のアーカイブ構築に関する調査研究」の一環として行われています。この活動を支える大きな力となり、無事に公開を進めることができました。そして今後、どのような形で活動を継続するのかが大きな課題です。本事業の調査の中で、作家・スタッフへの記名によるアンケートを行った結果、寄贈待機中の資料は13万冊とカウントされました。そのうち約半数の6万7千点を収集・整理できましたが、残り半数が現在も散逸の危機にさらされています。

また、日本図書館協会のご協力により、コンソーシアムが全公共図書館に行ったアンケート(2011年実施)において、約100館の公共図書館に合計1万冊の脚本資料が保存されていること

がわかりました。その多くが「地域資料」として保存されています。文学館・地域資料館にも多くの資料が保存されていました。全国に眠る脚本・台本がどこに保存されているのかを横断検索できる「統合検索システム」をめざし、基礎研究を開始いたしました。

委託事業や助成事業は永遠には続くわけではありません。自助努力による資金調達を検討する段階が刻一刻と迫っています。この悩みは、多くのアーカイブ活動で共通のものだと思います。より多くの図書館、博物館、文学館、資料館の皆様との情報交換が、活動継続に向けた大きな力になると考えています。

(いしばし えり・一般社団法人日本脚本  
アーカイブズ推進コンソーシアム 事務局代表)

---

## 常総市立図書館の水損資料救済について

緑川朋子

---

### 1. はじめに

常総市立図書館（以下「市立」という。）は、2015年9月関東・東北豪雨による鬼怒川氾濫により浸水被害を受け、約3万冊の資料が被災した。被災当初の状況や復旧の様子については、市立の間中氏による詳報<sup>(1)</sup>があるので、本稿では資料救済の観点から茨城県立図書館（以下「県立」という。）が行ったことを中心に報告する。

### 2. 初動体制

県立と市立の連絡が取れ、状況を聞くことが出来たのは、9月11日の浸水後5日経った16日であった。同日、国立国会図書館資料保存課より支援について県立へ問い合わせもあった。

当初は、市町村支援という立場から普及課が窓口となり翌17日に現況確認に行った。この段階で、救済対象資料として、和本等を含む郷土資料（約300冊）と絶版のアンパンマン紙芝居（20点）の情報があがってきた。この情報を国会図書館へ伝えたところ、重複確認等対象資料の精査を指示された。

18日には、市立で作成した救済対象資料167点の一覧が届いた。常総市に関係するものだけに限定して作成された一覧を見て、まず私が感じたことは「市立が長い時間をかけて地域の資料をしっかりと収集していた」ということだ。地元の個人出版物、市内の学校の文集・実践報告書、総合計画をはじめとした各種計画等の行政刊行物、地元神社のリーフレット等。「何とかしなくては」という気持ちがはやる。資料の応急処置及び類縁機関の所蔵確認や代替資料収集等の要素が多くなってきたため、この段階で資料救済に関しては、普及課から資料受入を担当している情報資料課へ窓口が代わった。

### 3. 資料洗浄

19・20日に県立から市立へ図書・家具等の廃棄を手伝いに行くことになり、資料の応急処置もしたいと考えた。しかし、誰一人水損資料の処置経験のある職員がいない。参加した研修会の資料<sup>(2)</sup>や東京都立中央図書館のホームページ<sup>(3)</sup>等を参考に処理方針（応急処置方法、トリアージ区分及び代替資料の収集方法案）を作成した。冷凍保管がいいことは分かっていたが、保管する場所がなく、数も多いため、東京都立中央図書館へ応急処置について相談した。既に被災後1週間を経過し、カビが発生し始めていることから、洗浄→乾燥→（乾燥後）消毒の手順をとることになった。

県立・市立職員のほか、被災史料の状況調査中に立ち寄った茨城史料ネットの方と2日間作業を実施した（延べ17名）。実際に作業すると予想以上に時間がかかることがわかり、郷土資料を優先して処理を行う（紙芝居は既に1枚ずつ乾かしていたので洗浄せず）。資料は、全体的に臭いが発生し、濡れた箇所にくもりが感じられた。また、ブックコートされた資料は、その内部に汚水が染み込み表紙にカビが発生し、表紙を廃棄せざるをえないものもあった。さらに、ブックトラックで保管していた際に、隣にある資料のブックコートと張り付いてしまい表紙が破れてしまうものもあった。

水道水を使えたため、たらいに水を張り、本をすすぐように洗った後、塗工紙を含まないものは、手機械に挟み込んで水を抜き、塗工紙を

含むものは、ページごとに竹串を利用して剥がし、キッチンペーパーを挟んでから水抜きを実施した。水抜き後、キッチンペーパーをすべて取り替え、立てられる図書は立てて扇状に開いて乾燥させ、立てられない図書は寝かせてページを開いた状態で乾燥させた。

2日間で完全に乾燥するまでいたらなかったため、市立へ引き続き館内での乾燥を依頼した。乾燥スペースがとれないことから、作業場所付近での乾燥となる。

25日に日本ファイリング社が市立を訪問したところ、洗浄前の郷土資料がさらに見つかったことや、洗浄した資料の保管場所がよくないことから、国会図書館と連絡を取り、冷凍保管してもらうことになる。送付に当たって、洗浄済の資料も含め市立で再選別を行った。



(当初保管時の張り付きによる破損のため、奥付を紛失した資料)

#### 4. トリアージ区分と代替資料の収集

18日に市立より届いた167点の救済対象リストにより、県立・国会図書館・茨城県立歴史館の所蔵を確認し、次のトリアージ区分に従い、ランク付けをした。AD・C・Dに分けたのは、行政刊行物が多かったこと、市内については状況が収まってからの収集となるためである。

その後、29日には国会図書館で冷凍保管する資料148点のリストが届き、当初リストと照合し、全体のリストは241点となった。

(表1) トリアージ区分と点数

他館に所蔵なし		他館に所蔵あり	
[AD]	[D]	[C]	[B]
市内の行政刊行物 (69→70)	市内の行政刊行物 (34→34)	市外の行政刊行物 (5→12)	行政刊行物以外 (37→65)
[A] 他館に所蔵なし + 特に修復を希望するもの (22→39 + 紙芝居21)			

【 】：トリアージ区分  
( )：当初リストの点数 → 国会図書館保管リスト照合後の点数

代替資料の収集については、まず、県立のストック分に当たるとともに、複本がある郷土資料の提供を館内で検討した。次に、歴史館と茨城県教育研修センターに救済対象リストを送付し、資料の寄贈を依頼した。また、県関係機関(県庁関係課・県教育財団・県立学校等)や発行者に、該当する資料の寄贈を依頼した。立正大学古文書研究会の場合、大学の学生課を通じて依頼し、昭和期の資料であったが、現物がな

いものもpdfで提供してもらうことができた。さらに、books.or.jp及び日本の古本屋で入手可能な図書を検索し市立へ情報を提供した。

11月になり市立が図書館業務に専念できるようになったことから、市内の刊行物については、市立から寄贈依頼し代替資料を収集した。また、システムが再稼動する前であったが、目視による重複確認を行ってもらった。

その後、国会図書館より塗工紙張り付きのため修復困難とされた2点について、1点は発行者への問い合わせ、1点は現物を確認し、書誌データ違いの歴史館複本分を入手した。最終的に修復対象は31点にまで絞られ、国会図書館で修復された後、6月28日に市立に戻った。

(表2) 最終収集結果 (全241点中)

区分	点数	内訳等
修復	31	絵図・和書10, 郷土資料7, 行政刊行物2, 紙芝居12
代替資料収集	58	現物代替41, 購入6, pdf等11
他館に所蔵あり	39	
市立に複本あり	62	
市立に他の版あり	3	
その他	21	
重複資料	27	

#### 5. 対応を振り返って

次に、課題等についてまとめる。

第一に、初動体制の整備についてである。水損資料の場合、被災後2～3日間の初期対応が

重要になる<sup>(2,3)</sup>。今回の場合、応急処置が1週間後、さらに2週間後に発見された資料もあったため、カビや張り付きなどの被害が発生していた。カビの発生前に応急処置ができるよう県内図書館を対象とした研修会等で応急処置方法を共有できるようにしたい。被災図書館では、市町村の職員が図書館業務に専念できない場合もあることから、市町村ですることと県立等が代わりにできることの区分、初動の応援体制等を整理しておくことも必要だと思われる。

第二に、救済対象資料の保管場所・方法についてである。今回は洗浄時に水道が使えたため、洗浄・乾燥とも現地で実施したが、その後の保管環境、乾燥に対応できる人員、書誌同定等を考慮すると、県立に搬送した方がよかったのではないと思われる。再選別でリストから除外した資料について市立と十分な情報共有が出来なかった点も反省点の一つである。

特に、書誌同定については、リストのみで収集する危険性も実感した。資料に破汚損がある場合、わかる範囲での書誌作成となるため、違う書誌と認識してしまうことがある。手間はかかるが、早い段階で1点ずつ資料を写真撮影しておけばよかったのではと悔やまれた。

また、今回は早期に国会図書館で冷凍保管してもらえたため、洗浄していない資料も修復対象にできた。大型でなくてもいいので、県内に1箇所は冷凍庫を確保したいものである。

第三に、代替資料収集についてである。資料収集に当たっては、どこに資料が集まっているか日頃からアンテナを張っておくことが重要である。今回は行政刊行物が多かったため、持っていそうな機関を連想することも必要だった。

また、県の関係課や機関では、新しい資料しか持っていないことが多く、過去の資料は入手できないこともあった。他館に所蔵のある資料は、原則として修復対象から外したことも考慮すると、保管場所の問題はあるが、郷土資料については、ストックをどの程度持つべきかという課題も出てきた。

第四に、市町村立図書館の意向についてである。今回の場合、当初から救済対象に絶版の紙芝居が入っていた。資料救済というと郷土資料が中心になってしまいがちであるが、市町村立

図書館における児童サービスの重要性を考えさせられた。市立の意向に沿い、12点の紙芝居が消毒等による修復対象となった。今後、紙芝居を利用する際、子どもたちに水害のことを伝えるツールの一つになるに違いない。

最後に、国立国会図書館資料保存課の皆さんや東京都立中央図書館の眞野氏には、経験のない私たちに多くの助言をいただいた。この場を借りてお礼を申し上げる。

(\*1) 間中辰弥,「常総市立図書館の浸水被害と復旧への取り組み」(『図書館雑誌』vol.110 No.3 2016.3)

(\*2) 青木睦,「大量水損被害アーカイブズの救助システムと保存処置技術」(『平成18年7月豪雨災害における水損被害公文書対応報告書』(天草市立天草アーカイブズ 2010) 所収)

(\*3) 東京都立中央図書館,「資料防災マニュアル」(東京都立図書館ホームページ トップページ > 都立図書館について > 資料収集・保存について > 資料保存のページ > 災害対策)  
[http://www.library.metro.tokyo.jp/about\\_us/syusyu\\_hozon/siryuu\\_hozon/tabid/3814/Default.aspx](http://www.library.metro.tokyo.jp/about_us/syusyu_hozon/siryuu_hozon/tabid/3814/Default.aspx)

(みどりかわ ともこ・茨城県立図書館)

---

## 常総市立図書館の復旧支援について

須藤猛彦

---

### 1. はじめに

弊社・日本ファイリングは茨城県常総市に生産拠点を構え図書館家具、物流保管機器を製造している。2015年9月に発生した関東・東北豪雨では生産設備の直接的な被害はなかったが、不幸にも一部の社員は住宅の床上、床下浸水被害に見舞われた。このような状況の中、常総市立図書館(以下「図書館」という)が同豪雨により甚大な被害を受けたとの報に接し、地元企業として弊社も復旧の支援をさせて頂くべく、取り組みを行った。本稿はこの取り組みを図書館家具・資料保存関連サービスを提供する企業

としての観点から報告するものである。

## 2. 被害状況及び初動対応

弊社は1981年4月の図書館オープン時に据置書架・壁付書架、集密書架、木製家具等を納入させて頂いた。

◆2015年9月15日に図書館に赴き、什器の被害状況を確認した。全ての据置書架で最下段に配架された図書の吸水、膨張により想像をはるかに上回る圧力が加わり、側板が大きく破損した。高い強度を有するスチール製書架でさえ側板の下部が(写真1)、また木金混合書架では破損が側板全体に及び、木製書架に至っては木材自体が吸水し、大型本書架も被害が大きかった。(写真2)



(写真1)



(写真2)

詳細に確認すると側板の破損に繋がるスチール製棚板、袖板の著しい変形が認められた。(写真3)、また集密書架は浸水後短時日にもかかわらずレール部分に錆の発生が確認された。壁付け書架については目視が出来る範囲での不具合は確認出来なかった。しかし壁仕上げ材裏側のカビ発生が懸念されたので部分的な解体を伴うが、建築業者による確認をお願いした。(10月8日に解体、確認をして頂いたところ石膏

ボード裏側のカビが確認された。)



(写真3)

この後、国立国会図書館、都立中央図書館と連携を取りながら、弊社の取り組みを再確認した。

◆9月25日には国立国会図書館資料保存課の方と同行訪問した。無酸素パックを持参し、パッキング手順の説明を行った。カビの発生を最小限に食い止める為に未処理の水損資料の他、既に洗浄済み資料も半乾燥状態でも入れるべきであると進言した。この無酸素パックは国立国会図書館に冷凍保管対象資料を送る際にも利用されている。

同日、弊社からの支援の申出に基づき、図書館より以下の協力要請を改めて受けた。

- ・水損を免れた、特に重要な児童図書(約29,000冊)及び参考図書(6,000冊)

合計 35,000冊の図書館再開までの一時預かり。

- ・預かり期間中の滅菌(殺カビ、殺虫、殺卵)処理及びクリーニング処置。

弊社は要請を受け、工場敷地内にある大量脱酸処理施設で保管し、併せて同設備を使用した滅菌処理を施すこととした。さらに処理後はエタノールを用いたウェットクリーニング処置を適切に行い、預かり期間中でのカビの繁殖を絶無にする方針を定めた。

その後、図書館との業務委託覚書が締結されることとなり、万が一の事態を想定し図書館には損害保険契約締結のみをお願いした。

## 3. 図書資料の保管業務

図書館側での箱詰め作業の進捗に合わせ、準

備が整った図書延べ1,000箱強を10月2・9・13日の3回に分け保管施設に運搬した。使用された段ボールの形状は複数あり、また水分を含み長期保管には適さないものも多く見受けられた。豪雨発生直後より図書館側でさまざまな対応がとられたが、それらが如何に多くの制約を受けたものであったかを窺い知ることが出来る。弊社で確認を行ったところ、図書表装部における顕著なカビ被害が見受けられなかった為、作業工程を変更し長期保管に適した統一の段ボール箱への詰め替え作業を先行して行うこととした。新しい段ボール箱への詰め替え時には一点一点に対し、丹念にクリーニング処置を、続いて一定量に達した段階で順次、滅菌処理を施した。この後、脱酸処理施設に付随する22℃-Rh55%に恒温恒湿された書庫に保管した。(写真4)

以後、本年3月の仮設図書館オープンに合わせ約1/3が納品されたが、残り2/3は現在も保管している。



(写真4)

#### 4. 水損した什器の再生

スチール製書架は側板の破損以外は書架を構成する基本パーツに変形、腐食が認められなかった。仮設図書館のオープン時には現図書館より移設を行い再び利用されることとなった。

#### 5. おわりに

今回の関東・東北豪雨では結果としてさまざまな新しい知見、教訓を得る機会となった。図書館家具メーカーとして今後の製品開発に結び付けることが責務と考える。末筆ながら、被害にあわれた方々に心よりお見舞い申し上げますとともに一日も早い復旧をお祈り申し上げます。

(すどう たけひこ・

日本ファイリング株式会社)

<参加記>日本図書館協会資料保存委員会  
主催「製紙工場を見学しよう！」

王子マテリア江戸川工場見学会

木本洋祐

2016年3月14日(月)に王子マテリア江戸川工場の見学会が行われた(参加者14名)。

王子マテリア江戸川工場は、東京都で最も東に位置する江戸川区のそのまた最東部にあり、工場の近くを流れる旧江戸川の向こう岸は千葉県市川市になる(地図で見ると驚くことに浦安の東京ディズニーランドよりも東に位置している)。都内唯一の製紙工場だという。1922年(大正11年)に製紙を始めて95年近くになる。かつては『広辞苑』の本文用紙を長く製造していたが、老朽化した機械は2000年に他の工場に移されて、以後は書籍用の紙は作っていない。現在は、ちり紙・食品・洗剤等のパッケージ(外箱など)用の白板紙(表面は白く、裏はねずみ色の「うらねずの紙」正式名称は「コート白ボール」)がメイン製品となっている。

製紙の工程は、①フォーマー(紙の層を形成する)、②プレス(水分を絞り取る)、③ドライヤー(乾燥させる)、④コーター(紙の表面に「化粧」を施す)など主に4つのパートから成る。全長180メートル、幅5メートル(紙のロール幅は3メートル30センチ)の製紙ラインが時速約20キロで24時間稼働して月間10,000~12,000トンの板紙が生産されている(機械は定期的に停めて検査を行う模様)。

実際にその製紙ラインを見ると、その巨大さに圧倒される。ラインの最終パートから見えるスタート地点ははるか彼方にあり、水蒸気の影響もあって霞んでみえるほどだ。製紙業が巨大な装置産業であることをまざまざと実感させられた。我々が良質な紙を日常的に安価で消費できるのもこのような大量生産(そしてリサイクル)のシステムがあつてのことなのだ。

古紙のリサイクルは、まずは首都圏で発生した古紙を専用置場に集積し、種類ごとに分け、バルパーと呼ばれるミキサーに投入する。水を加えて古紙をおかゆ状に溶かす。ミキサーの中

で製紙には不要となる異物類が、プラスチックは浮き、金属は沈み、各々除去される仕組みになっている。ちなみにビニール類は、パルパーの中に垂らしたナイロン紐からみつく。ここで不要な異物とされたビニール類は、製紙ラインのドライヤーパートでシリンダーを加熱するための大事な燃料として使われるとのことで、これがいわゆる「ゼロ・エミッション（廃棄物をゼロにすること）」を目指す事例であった。

また、古紙リサイクルの業界では「禁忌品（きんきひん）」と呼ばれる異物が種々あるが、特にカバンや靴の中に入っている詰め物や感熱性発泡紙が製紙工程に混入すると、最終製品にシミや凹凸を発生させて不良品にしてしまうので、家庭でのゴミ出し時の排除を啓蒙している。

江戸川工場では10年前から機密書類処理を行っている。この処理では個人情報に記載された書類も対象となるため情報漏えいを防ぐため、専用のエリア・スタッフ・施設を設けて対応しているという。

私の勤務先（神奈川県立公文書館）でも、神奈川県庁や出先機関で作成し保存期間を満了した公文書を受け入れて、保存すべき歴史的公文書を選別するのだが、それ以外の文書は廃棄するため、膨大な量の書類を業者に委託して溶解処理している。ISO27001を取得し高いレベルで進められている江戸川工場での機密書類処理に興味深くみた。

紙のリサイクルを繰り返す、すなわち溶解処理等を何回も繰り返していると紙の繊維が脆弱化し最終製品が粗悪化しないか、とすればそれを防ぐための対処方法があるのか質問してみた。紙の繊維が短くなりすぎると互いに絡み合わなくなるので、紙のリサイクルは4～5回が限度。製紙原料にフレッシュパルプ（リサイクルしていない紙料）を混ぜることで脆弱化を緩和しているとの答えであった。

見学当日は大雨であったが、広い工場内の移動や見学終了後の最寄り駅までの送迎に車を手配していただくなど、王子マテリア江戸川工場のご担当者には丁寧なご対応をいただき、有意義な見学を終えることができたことと感謝する次第です。

（きもと ようすけ・

神奈川県立公文書館資料課）

## ■2016年度日本図書館協会資料保存委員会 資料保存セミナーご案内「写真保存の基礎 ～どのように残すことがベストなのか？」

地域の営みを記録し、郷土の歴史資料としての価値を持つ写真。その保存方法が一般の紙資料と違うことをご存知ですか？

貴重な写真資料を後世に残し伝えるためには、どのようにするのが良いのでしょうか？

写真資料の保存は、劣化の要因や種類を知った上で対処することが大切です。

セミナーでは、写真資料の代表的な劣化要因や対策、プリントやネガを含めた保存方法について、おさえておきたい基礎的なポイントをご紹介します。

主催：日本図書館協会資料保存委員会

日時：2016年9月9日（金）19:00-20:30

会場：日本図書館協会 2階研修室

講師：山崎信 氏

（株式会社フォトクラシック代表取締役。日本大学芸術学部写真学科非常勤講師）

参加費無料・申込不要

問合先：日本図書館協会資料保存委員会事務局・川下（電話：03-3523-0816

FAX：03-3523-0841

E-mail: kawashita@

jla.or.jp)

## 資料保存委員会の動き

2016年2月定例会

日時：2016年2月24日（水）

場所：日本図書館協会会議室

出席：5名

内容：

報告事項（「ネットワーク資料保存」：113号入稿、114号企画、デジタル化以降への予定確認、会計の扱いについて／2016年度事業計画提出／部会長・委員長会議、大会実行委員会会議出席調整／製本工場見学申込状況／図書館災害対策員会第1回会議報告）

協議事項（HP改訂：リンク集を「被災資料救済・

資料防災情報源」に改称、構成の再検討  
／大会：テーマ案／セミナー：写真の保  
存、講師候補の検討／見学会：国立公文  
書館の募集内容検討、その他の候補検討）  
その他（情報交換）

#### 見学会「製紙工場を見学しよう」

日時：2016年3月14日（月）  
見学先：王子マテリア江戸川工場  
参加者数：14名（申込17名）

#### 3月定例会

日時：2016年3月23日（水）  
場所：日本図書館協会会議室  
出席：6名  
内容：

報告事項（「ネットワーク資料保存」：113号の  
納品予定、114号の進捗状況／HP：大会  
記録アップ完了、「被災資料救済・資料  
防災情報源」改訂内容検討／委員会規約：  
内容検討の意見募集／3/14製紙工場見  
学会報告）

協議事項（見学会：6/13国立公文書館見学、  
広報について、その他の見学候補は継続  
審議／セミナー：写真の保存、講師は山  
崎信氏で決定、日程調整中／JHKシンポ  
ジウム、ワークショップ形式の打診あり、  
テーマ等協議を進める／大会：テーマ決  
定、内容・発表者候補・タイトル協議、）

#### 4月定例会

日時：2016年4月20日（水）  
場所：日本図書館協会会議室  
出席：10名（オブザーバー含む）  
内容：

報告事項（「ネットワーク資料保存」会費督促、  
114号進捗状況／規約、事業報告：作成、  
提出状況）

協議事項（大会：分科会タイトル決定、内容確  
認と時間配分、分科会調査票について／  
国立公文書館見学会：見学申込、広報確  
認／セミナー：写真保存日程確認、チラ  
シ作成について）

その他（熊本地震について：災害対策委員会の

動きと情報交換／イベント紹介）

#### 5月定例会

日時：2016年5月18日（水）  
場所：日本図書館協会会議室  
出席：7名（オブザーバー含む）

内容：

協議事項（大会：分科会案内、実行委員会、ワー  
クショップ担当について／セミナー：写  
真保存—日程変更、募集方法について、  
今後のセミナー候補について）

報告事項（「ネットワーク資料保存」114号進捗  
状況および刊行予定、115号企画／熊本  
地震：第2回災害対策委員会報告／HP：  
災害時対応、予防対応の構成について／  
見学会：国立公文書館申し込み状況）

その他（イベント紹介）

### ■デジタル版移行へのご挨拶

「ネットワーク資料保存」は次号の115号を  
持ちまして、紙媒体での発行を終了すること  
になりました。116号からは日本図書館協会  
のホームページ内、資料保存委員会のページ  
（[http://www.jla.or.jp/committees/hozon/  
tabid/96/Default.aspx](http://www.jla.or.jp/committees/hozon/tabid/96/Default.aspx)）にて読んでいただけ  
るように準備中です。

また、バックナンバーも100号以降になり  
ますが、可能な範囲での公開を計画中です。

長くご購読いただいた方、寄稿いただいた  
方、ご意見をお寄せいただいた方、様々な方々  
に支えられてまいりました。今後ともどうぞ  
よろしくお願い申し上げます。

---

---

ネットワーク **資料保存** 第114号 2016年7月

編集・発行：日本図書館協会 資料保存委員会  
〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14  
☎ 03-3523-0812 FAX 03-3523-0842

印刷：船舶印刷株式会社

用紙：北越製紙クリームキンマリ

年間購読料：2000円（年4回刊行、送料込み）

定価：本体価格476円（税別）

---

---